

Joe の豪ドル道場 (28)

(毎週月、水、金)

—豪州在住、侍ディーラーが豪ドルの真髓に迫る—

<モットー> “豪ドルを国際通貨の枠組みでとらえると同時に、豪ドルに

対する国内、対外要因を豪州市場から直接・徹底分析”

(豪ドル米ドル日足)



(豪ドル円日足)



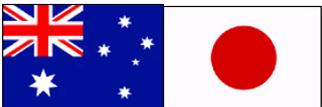
(米ドル円日足)



(ユーロ米ドル日足)



<長期予想ビジョン>

通貨ペア	半年後(3May2009)の相場予想	予想変更日/実勢レート	変更前予想値/予想日/実勢レート
	0.7300	3 Nov 2008 0.6650	
	76.65	3 Nov 2008 65.50	
	105.00	3 Nov 2008 99.00	
	1.4500	19 Dec 2008 1.4300	1.3500 (3 Nov 2008 時点 1.2700)

<最近の気になる出来事、発言>

<p>出来事</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ オバマ次期大統領経済政策演説 (1/8) ・ イタリア市政 (ミラノ市など) デリバティブ関連の巨額債券損失めぐりドイツ銀行、UBS など訴訟か?の記事 (1/6) ・ オバマ次期大統領のパッケージ (減税と財政支出で 7750 億ドル) (1/6) ・ イスラエル軍のガザ地区進行の激しさ増す (1/4) ・ ロシア、ウクライナへのガス供給停止 (1/2) ・ 米政府は米自動車産業に対し金融安定化法の資金を活用して計 174 億ドル (1 兆 5500 億円) の資金繰り支援を行うと発表 (12/19) ・ 日銀は政策金利の誘導目標を引き下げ。0.3%→0.1%。また企業 CP 買取策を発表 (12/19) ・ 米 FOMC で FF 金利の誘導目標を 0.0%~0.25%に引き下げ (12/16) ・ ECB 利下げ (3.25%→2.50%)、BOE 利下げ(3.00%→2.00%)、スウェーデン中銀(3.75%→2.00%)、RBNZ 利下げ(6.50%→5.00%) (12/5) ・ RBA 利下げ 5.25%→4.25% (12/2) ・ 11/21 早朝 RBA 豪ドル買い介入 (5 回目) 0.6100 近辺。10 月 24 日、27 日、28 日、11 月 13 日に続く)
<p>発言</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ オバマ次期大統領—今すぐ断固たる措置を取らなければ何年も景気後退が続く恐れがあり手遅れになる。(1/8) ・ アルムニア欧州委員—ユーロは厳しい経済の現状で主要資産であることを示してきた。(1/8) ・ コンスタンシオ・ポルトガル中銀総裁—インフレ低下なら利下げも。(1/6) ・ 日銀白川総裁—日銀は円高対応策を考える可能性がある。(1/4) ・ トリシェ ECB 総裁—ECB はこれまでの決定の影響に焦点を当てている。7月の利上げは正しかった。経済リスクは下向き。(12/30) ・ トリシェ ECB 総裁—政府による追加の財政出動は市民の信頼がなければ積極的な効果がない。(12/23) ・ 白川日銀総裁—景気は悪化しており今後も厳しさを増していく。最近の金融経済情勢は厳しさを増しており金融面から景気を刺激することが必要との判断で一致した。(12/19) ・ 中川財務相—為替レートは市場実勢で決まる。介入を予想しない。→日銀は注意深く為替市場をモニターしている。(12/18)

<キーワード>

リスク値、株安、FF 金利 0.00-0.25%、日銀 0.1%、米自動車産業、雇用不安、中東緊張、

米金融不安、米住宅産業、信用収縮、中国財政出動・利下げ、協調利下げ、世界同時不況、RBA 豪ドル買い介入、日銀介入の可能性

<今後の注目イベント>

9 日（金）米国雇用統計、14 日（水）米小売売上高、15 日（木）豪雇用統計、ECB 政策金利、20 日（火）カナダ政策金利、21 日（水）豪 PPI、28 日（水）米 FOMC、豪 CPI

<当地の気になる情報>

NA

<豪ドル相場解剖>

(大局－相場力学) 底値圏の三角保合・鍋底形成から上放れか?

豪ドル (0.60-0.70) 豪ドル円 (55 円-70 円) で三角保合相場を形成してきたが豪ドルは今年に入り 72 セント台に上昇しており、いよいよ上にブレイクか?

2002 年から始まった上昇トレンドが今年 7 月の高値示現で終わり<0.9848、史上高値 (7/15)、104.47 円 (7/21) >、急激な下降トレンドに転換。ダブルボトム① (0.6009 (10/27)、55.20 円 (10/24 史上安値) と②11 月 20 日の 0.6074、56.83 円) を付けながら三角保合に移行した。新年とともに 0.7266、68.24 円 (共に 1/6) まで上伸ばしたが、昨日一時 70 セント割れ、64 円割れまで反落しており、まだ三角保合を上放れしたとは判断できない状態。

向う半年の予想レンジ：豪ドル米ドル 0.6500-0.8000、豪ドル円 60.00-80.00

(小局) 上伸後打って変わってリスク値高まり反落

週初はオバマ期待から世界的に株価上昇し、商品相場 (原油価格等) の堅調も手伝って一時 72 セント台、68 円台まで上昇した豪ドルであるが、イタリア債券シュキャンダルに続いて米国の雇用悪化観測、インドのサティア・コンピュータの会計疑惑が原因となるインド株式市場の急落がアジア全般に波及したことなどから再びリスク回避の動き強まり、昨日は一時 70 セント割れ、64 円割れまで大幅反落した。昨日のオバマ次期大統領の「経済政策演説」は厳しい現実と共に克服するという確固たる姿勢を示したが、米株価の大きな反発にはつながっていない。市場は本日の米雇用統計を控えて神経質になっているが、米国雇用諸指標がいまだかつてない悪化を示していることや株価低迷、更には企業の相次ぐ収益下方修正などからリスク値が再び上がりつつある。また商品相場も原油の反落 (50 ドル→40 ドル台) などから再び軟調となっており今年になってからレンジを上抜けたかと思われた豪ドルもまたもや上値トライのエネルギーが減少した感じ。やはり実体経済の回復無しに本格的な豪ドルの

上昇トレンド入りはないと言うことか。

向う 1 週間の予想レンジ：豪ドル米ドル 0.6900-0.7300、豪ドル円 64.00-68.00 円

<豪ドル売り・買い指数（前回の結果一当たり、はずれ一を踏まえて毎回レビュー訂正）>
 豪ドルの好・悪材料の相場への影響度を項目別に分類して-10（最弱）から+10（最強）まで独自の手法で数値化したもの。項目数は適宜増減する。今回は 9 項目。理論上総合判断では最強を+90、最弱を-90 となる。各要因は相関（または逆相関）関係があるが（たとえば市場センチメントがベアになればセンチメントは売り要因（-）となるが逆に市場は売りポジションになるので、ポジション調整の可能性から豪ドル買い要因（+）となりうるなど）。また同じ要因でも時間が経過すれば影響度は減少または消滅すると考える。

客観情勢の「目安」となる変動要因の数値化で現状から将来予測を試みるのが主眼。

-10	-9	-8	-7	-6	-5	-4	-3	-2	-1	0	+1	+2	+3	+4	+5	+6	+7	+8	+9	+10
-----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	---	----	----	----	----	----	----	----	----	----	-----

構成要因	ポイント	今回数値	前回数値
豪州ファンダメンタルズ（経済・政治）	*Good—大幅利下げ、財政黒字、政府 A\$10.4bio 景気刺激策 *Bad—11 月小売売上高+0.1%低迷、11 月の就業者数-15.6 千人、景況感大幅悪化、RBA 四半期金融政策報告で今年の成長率 1.5%に下方修正、消費・住宅部門低迷、雇用市場懸念、輸出減少	-3	-3
市場センチメント (リスク値に対する円キャリーポジション造成・解消など)	株価軟調でセンチメント再び悪化。	-1	+3
短期筋推定市場ポジション（キャリートレード、IMM ポジションなどから判断）	IMM の豪ドル売りポジションは小額。市場ポジション大きな傾きない。Small short→買戻しの可能性。	+1	-2
商品相場	原油 41 ドルに反落、金 856 ドルに反落。CRB228 (-3.43)	-2	+2
金利	12 月 RBA1%利下げ。更なる金利先安感ある。	-1	-2
需給	新年の鉱山関係手当買いはリーズ&ラグズで豪ドル上昇懸念出れば、買いカバー前倒しも。キ	+2	+2

	リンの地場飲料会社買収交渉中。(5000 億円相当) その他豪鉱山買収計画、British Airways による QANTAS 買収計画などもあり。		
テクニカル (チャート)	移動平均線 (長期 90 日) 下向き、短期 (20 日) 上向き。豪ドル米ドルは短期線が長期線にゴールデンクロス。豪ドルは雲 (0.6510-0.6623) やボリンジャーバンド (0.6686-0.7223) の上限を一旦抜けたが再度バンド内に引き戻された。豪ドル円もボリンジャーバンド (59.24-67.15)、雲 (61.70-65.05) を上抜けしたが、雲の中に反落した。やはり両通貨ペア共 RSI が 80% レベルに達し、大きな調整が入った。ただ昨日長い下ヒゲが出ており、下値抵抗感が確認されている。	+1	-2
その他	RBA、61 セント台で 5 度目の介入 (11/21)、11/13 には 63 セント台で介入。介入警戒感残る。米株式市場軟調。	+1 -1	+1 -1
総合判断	リスク値増大し若干売りシグナル	-3/±90	-2/±90

(*Good, Bad は豪ドルにとってという意味)

<結論、今後の戦略> リスク値見ながらの神経質な動き

やはり 72 セント台、68 円台はダマシとは言わないが、安定上昇トレンド入りには程遠い。昨日も株安、米雇用、インド・アジア株急落などリスク値が高まったことと、前回指摘したように RSI が 80% と極限の over bought となったことが重なって昨日は 71 セント台→69 セント台、66 円台→64 円割れと大きく下落した。週初の豪ドルブル相場で頭の切り替えが大変だが、やはり昨日の下げはついていくべき。ただし、売りっぱなしだとやはり昨日の戻り 69 セント台→71 セント台、64 円割れ→65 円でやられてしまう。日中も材料 (ニュース、リスク値) をこまめにチェックして“走り出したら乗って、腹八分目で利食う”を繰り返すしかない。トレンドがない以上、“利食い千人力”で利食ったもの勝ち。さて本日、米国雇用統計を控えてただでも神経質な相場が予想される。週初から上・下をやってしまい、またやりにくい相場だが、

リスク回避の動きもありユーロ円、豪ドルなど円クロスは頭が重い展開か。従来サポートラインであった 65 円がレジスタンス。このレベルではショートメイクも。一方米ドル円が 90 円を割ってきたら口先含めて日銀介入には要注意。一方豪ドルは 70 セント割れの下値抵抗感強く 70 セント台前半は買い場と思える。ずれにせよ、小まめに抜いていく作戦継続！
本日の予想中心レンジ： 豪ドル米ドル 0.700-0.7180、豪ドル円 64.00-65.50

<懺悔の部屋>—過去の失敗から学ぶもの—

(心理面、技術面、チャート分析の3点より)

(その二十六) 止まっているときにポジションを増やさないで走り出したら、または走り出すと6割の確率で感じたときにポジションを増やす。(技術面)

相場が走り出すとなかなかその速度にたじろいたりして、ポジションを作りにくいものである。やはり過去の経験則から突っ込み売り、突っ込み買いはしたくないという本能が働くのか。その点相場が止まって揉みに入るとつい安心感からかポジションを大きく増やすことがある。つまり揉みに入れば値動きが限られるから、ポジションを大きくして小さい利ぎやで抜いていこうということで、それはそれで一理ある。しかし揉みに入ったということは次に大きな動きが来ることを意味する。そして仕手筋は揉みでポジションが傾いている方向を察知して、ストップロスを誘発するように逆攻めするケースが往々にしてある。なぜかポジションを大きくして、なかなか思う方向に動かずにうんうん行っているときに、急にアゲインストに動くあの動きである。揉み相場でやられるのは大概このケースであり、揉みは値幅が小さいわけであるから、大きく儲けるチャンスは少ないわけで、むしろやられないこと第一に考えるべきであろう。そしてチャートなどから揉みを離れたと判断したとき、もしくは離れる可能性を6割感じたときにポジションを増やすわけである。残念ながら揉みを離れたのがダメシでまた揉みに戻ってしまえば、その増やしたポジションは早めに処理するのがいいであろう。そして本当に揉みを離れたときには果敢に攻めることを躊躇すべきではない。